

卒業生に関するアンケート調査 結果報告

令和4年11月

広島文化学園短期大学

就職・キャリア支援センター

1 調査目的

卒業生就職先の企業等へ「求める人材の要件」等の調査を行い、教育の効果及び学生が修得した学修の成果等を把握し、その結果を本学の教育内容にフィードバックすることにより、更なる改善に資する。

2 調査期間

令和4年9月

3 調査対象

令和4年3月卒業生が就職した企業等

4 調査方法

自記式の調査用紙（記名式）

5 回収率

回答数	依頼数	回答率
93	166	56.0%

6 調査内容

- (1) 事業内容
- (2) 採用の際の重視度（3項目選択）
- (3) 卒業生の資質（5段階評価）
- (4) 改善すべき事項（自由記述）
- (5) 本学の教育内容・教授方法等についての意見（自由記述）
- (6) 本学の教育についての意見（自由記述）

※（2）（3）の選択肢

- | | | |
|---------------|----------------|---------------|
| ① 専門的知識・技能 | ② 一般常識・教養・マナー | ③ パソコン操作等の能力 |
| ④ 理解・判断力 | ⑤ 問題解決能力 | ⑥ 意欲・熱意 |
| ⑦ 学ぶ姿勢・向上心 | ⑧ 責任感・誠実性・粘り強さ | ⑨ コミュニケーション能力 |
| ⑩ 協調性・チームワーク力 | ⑪ その他 | |

7 調査結果

(1) 事業内容

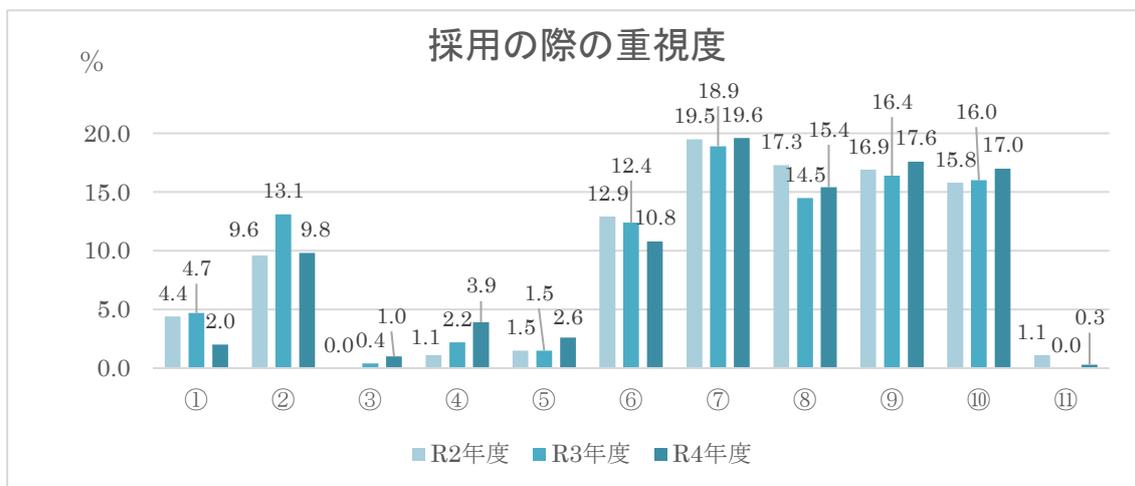
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
	1				10			9		12	51	8	2

- ①建設 ②製造 ③電気・ガス ④情報通信 ⑤運輸・郵便 ⑥卸売・小売
 ⑦金融・保険 ⑧不動産・賃貸 ⑨宿泊・飲食 ⑩娯楽 ⑪教育・学習支援
 ⑫医療・福祉 ⑬複合サービス ⑭その他

(2) 採用の際の重視度（3項目選択）

企業が採用時に最も重視される項目は「⑦学ぶ姿勢・向上心」である。続いて「⑨コミュニケーション能力」「⑩協調性・チームワーク力」である。

一般的にコンピテンシーの要素（⑥～⑩）がリテラシーの要素（①～⑤）よりも重視されており、令和



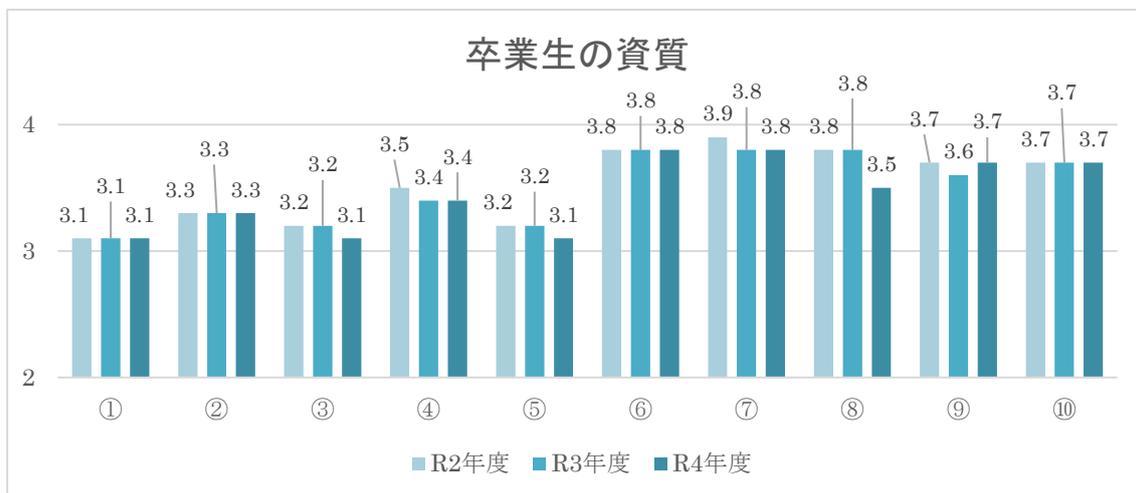
2年度と令和3年度も同様である。

(3) 卒業生の資質（5段階評価）

卒業生の資質についての評価結果は5段階評価で3.1から3.8である。評価が最も高いのは「⑥意欲・熱意」「⑦学ぶ姿勢・向上心」「⑧責任感・誠実性・粘り強さ」であり、逆に評価が最も低いのは「①専門的知識・技能」「③パソコン操作等の能力」「⑤問題解決能力」である。

一般的にコンピテンシーの要素（⑥～⑩）がリテラシーの要素（①～⑤）よりも高い評価となっている。

令和3年度と比較して評価結果が下がったのは「③パソコン操作等の能力」「⑤問題解決能力」「⑧責任感・誠実性・粘り強さ」である。



(4) 改善すべき事項（自由記述）※資料参照

「責任感が強い」「最後までやり遂げようとする粘り強さを持っている」「助言、提案を真摯に改善しようとする」等、肯定的な評価を多く受けた。

しかし、一方では改善すべき事項として次のとおり意見をいただいた。

① 専門的知識・技能に関すること

「専門的な仕事の理解が不足している」「仕事に対する責任感が足りない」等

② パソコン操作等の能力に関すること

「パソコンが全くできない」等

③ 問題解決能力に関すること

「入職前に理解力、判断力、問題解決能力を身に付けて欲しい」等

(5) 本学の教育内容・教授方法等についての意見（自由記述）※資料参照

「人間力をしっかり教育されている」「多岐にわたる教育内容により選択肢が増える」等、肯定的意見もがあるが、その一方で、「実践に伴った授業」「現場で即戦力となる人材育成」「インターンシップ等の体験」等について更なる改善が望まれるとの意見もいただいた。